

日本患者・家族団体協議会

7月
1990

SSKOの 仲間 No.25

SSKO

〒161 東京都新宿区下落合3-15-29
全腎協内

☎03(952)5347/FAX03(953)1750

購読料1部300円(年間1,500円送料込)

21世紀めざした運動を

第5回総会で活発な討議

JPCは六月十日、東京・品川区の全社連会館で第五回総会を開きました。総会には二十六団体から五十五人の代議員と三十一人のオブザーバーが出席、十五人から委任状が提出されました。

総会は辻川常任幹事の司会で開会され、佐々木長（日患同盟）、

米山悖（大阪難病連）両氏の議長と、書記、議事録署名人を選び、また、先に亡くなったパーキンソン病友の会の河野磐さんらを悼み黙とうしました。

総会ではまず長（おさ）代表幹事が挨拶し、米議会で先頃成立した障害者に対するすべての差別を禁じた米障害者法を紹介しながら、日本の患者・障害者施策の遅れ、医療差別政策を批判、JPCを質的に強化し、二一世紀をめざした運動強化の必要性を訴えました。

つづいて、活動報告、決算報告が小林事務局長から、会計監査報告が羽田監査からそれぞれ行なわれました。この報告に対して、低料三種郵便の条件緩和、身障者鉄道・航空運賃割引の対象拡大、国会請願のあり方、取組み方などの意見、要望が代議員からだされ、

伊藤代表幹事の回答を了承して三報告を承認しました。

この後、古川常任幹事から新年度の活動方針案、小林事務局長から予算案がそれぞれ提案されました。提案については、九〇年代、差別医療が拡大されることへの懸念、請願署名の扱いの改善、国立医療機関統廃合反対運動の経験、希少難病患者の相談への対応、重度難病患者の介護の実情と経済的保障などの意見、要望がだされました。これについて、伊藤代表幹事が回答し、方針案、予算案をそれぞれ採択しました。

この後、伊藤（文）常任幹事から総会運営規程、役員選出規程を含む規約改正案、常任幹事から新役員候補者案、黒田常任幹事から総会宣言案がそれぞれ提案され、拍手で原案通り採択しました。議事終了後、前日の地域難病連交流会の模様、二日前に帰国した北海道難病連のヨーロッパ視察団の報告があり、兵庫県難病連・朝見会長から「全国交流集会90」への協力要請の後、伊藤代表幹事の閉会挨拶で総会を終わりました。



1989年度 決算報告

自：1989. 4. 1 至：1990. 3. 31

(単位：円)

収入の部	項目	予算	金額	予算比	備考
	分担金	2,170,000	2,344,000	108.0%	27団体
協力会費	3,000,000	1,401,000	46.7		
機関誌購読料	1,200,000	1,055,750	88.0		
募寄付金	3,000,000	3,850,878	128.4	国会請願カンパ	
雑収入	8,735,000	8,115,090	92.9	花火、雑貨、一般寄付	
	100,000	30,709	30.7	資料販売、受取利息	
小前期繰越計	18,205,000	16,797,427	92.3		
合 計	2,533,850	2,533,850	100.0		
合 計	20,733,850	19,331,277	93.2		

支出の部	項目	予算	金額	予算比	備考
	会議費	2,600,000	2,418,608	93.0%	総会、幹事会、常任幹事会
機関誌発行費	1,100,000	1,021,119	92.8	18～23号印刷代、送料ほか	
印刷費	1,600,000	1,558,791	97.4	署名用紙、チラシ、その他	
旅行費	600,000	451,619	75.3	加盟団体訪問、各種行動	
事業費	1,800,000	1,449,314	80.5	研修会費、海外派遣費等	
教育宣伝費	100,000	60,470	60.5	資料、書籍購入費	
通信費	680,000	656,843	96.6	切手、電話代金等	
人件費	2,993,500	3,026,830	101.1	事務局員給与、社会保険料	
事務所費	240,000	240,000	100.0	2万円×12(全腎協)	
備品消耗品費	600,000	121,639	20.3	事務用品、昇旗など	
協力会費還元支出	900,000	401,400	44.6	取扱団体還元分	
寄付金還元支出	3,955,000	3,661,473	92.6	取扱団体還元分	
事務所設置積立金	1,000,000	1,800,000	180.0	1989年度分積立	
雑費	70,350	72,750	103.4		
小計	18,238,850	16,940,856	92.9		
予備費	2,500,000	0	0.0		
合 計	20,738,850	16,940,856	81.7		
期末収支		2,390,421			

会計監査報告書

一九八九年度「日本患者・家族団体協議会」の決算について、会計帳簿類、証ひょう類、現金、預金などの一切について監査した結果、すべ

て適正に処理されていたことを認め報告します。

一九九〇年五月十五日

会計監査

寺山 理 印

羽田邦夫 印

1990年度 予 算

自：1990. 4. 1 至：1991. 3. 31

(単位：円)

収入	項目	89年度決算	90年度予算	内 訳
	分担金	2,344,000	2,350,000	89年度実績並
協力会費	1,401,000	3,000,000	協力会員会費 3千円×1千人	
機関誌購読料	1,055,750	975,000	有料購読 650部×1,500円	
募寄付金	3,850,878	3,200,000	国会請願	
雑収入	8,115,090	7,235,000	雑貨、花火、一般寄付	
	30,709	100,000		
小前期繰越計	16,797,427	16,860,000		
合 計	2,533,850	2,390,421		
合 計	19,331,277	19,250,421		
支出	会議費	2,418,608	2,600,000	総会、幹事会、常任幹事会、地難連・疾病別交流会
	機関誌発行費	1,021,119	1,100,000	24～29号印刷費、送料、原稿料、取材費ほか
印刷費	1,558,791	1,600,000	署名用紙・チラシ、印刷機・コピー使用料(全腎協)	
旅行費	451,619	500,000	出張旅費、その他行動費	
事業費	1,449,314	1,650,000	研修会、協力会員海外研修派遣費、その他	
資料研修費	60,470	100,000	図書・資料購入費、研修会参加費など	
通信費	656,843	700,000	電話、郵便、その他	
人件費	3,026,830	3,536,839	給料、社会・雇用保険、通勤交通費等	
事務所費	240,000	240,000	2万円×12月 全腎協へ	
備品消耗品費	121,639	450,000	事務用品、OA機使用料(全腎協)、ワープロ導入	
協力会費還元支出	401,400	900,000	協力会員還元分	
寄付金還元支出	3,661,473	3,355,000	雑貨・花火還元分	
事務所設置積立金	1,800,000	1,000,000		
雑費	72,750	118,582		
小計	16,940,856	17,850,421		
予備費	0	1,400,000		
合 計	16,940,856	19,250,421		
合 計	(期末収支)	(2,390,421)		

2

規約改正の要点

【規約改正点要旨】

(総会)総会の開催は毎年六月とし、代表幹事が招集する。△第七条▽
(書面参加)総会には書面で参加できる。△第七条▽

(総会評議員)代理を出すことができないことが原則の「代議員」制を、「評議員」に改めた。これは直前に体調が悪化することがあり得る患者団体の総会であることを配慮したものの。△第七条ほか▽

(総会運営)総会運営に関する別規程を設ける。△第七条▽

(幹事会の構成)幹事会の構成員に常任幹事も含むことを改めて明記した。△第九条▽

(幹事の定数)「若干名」としていた幹事の定数を、「加盟団体各二名」と明記した。△第十一条▽

(役員選出)役員選出について規約上規定し、その手続きについて別に規程を設けることを定めた。△第十三条▽

(分担金)分担金額に関して別途定めた「申合せ事項」のうち、一般会計決算における収入総額の一定相当額を「…%以上」に改めた。

(評議員選出基準)規程の改正にと

もなつて、別に定める「代議員選出基準」を「評議員選出基準」と改め、最低基準を一名から二名に増員するとともに、基準となる加盟団体の会員数の確認時期を一総会直近の幹事会」とした。

【総会運営規程要旨】

(運営委員会)常任幹事一名、評議員四名(地難連二、疾病二)からなる運営委員会を設ける。

(任務)運営委員会は、総会日程、評議員の確認、書面参加の扱い、議事録署名人の推薦、動議の扱い、総会参加者、オブザーバーの扱いなどを任務とする。

(書面参加)書面で意見、修正案を提出できる。書面参加は総会二日前までに提出する。書面参加は出席とする。

(議案の送付)常任幹事会は総会三十日前までに、加盟団体に議案を送付する。

【役員選出規程要旨】

(役員選出委員会)幹事、常任幹事、事務局長含め五名で構成する選出委員会を設ける。

(任務)選出委員会は、役員選出作業を行う。選出委員会は、役員が円満に定数を満たすよう調整機能を持つ。

(手続き)役員立候補者は評議員で

ある。所属団体の推薦が必要である。代表幹事、事務局長立候補の団体は、会計監査に立候補できない。可能な限り参加団体の地域等を考慮する。

兵庫あいさつ

ご承知のとおり、「私たちの在宅医療」をテーマに『全国交流会別』を兵庫県神戸市の「しあわせの村」で、今年の十一月十七・十八日の二日間にわたつて開催いたします。

この「しあわせの村」は、全国でも有数の身体障害者のための施設です。ぜひ皆さんに見ていただきたいと思ひます。

兵庫難病連も一生懸命がんばつていきたいと思ひます。皆さんのおこしをお待ちしています。

(兵庫難病連代表幹事 朝見宏利さん)



あいさつする朝見宏利さん

閉会あいさつ

お疲れ様でした。たいへん素晴らしい総会だったと思ひます。

「ヨーロッパ視察旅行」で学んだことですが、スウェーデンの団体などでは、「私たちは『圧力団体』だ。私たちがこの国の医療と福祉を推進し、少なくとも後退はさせない」と言っていました。そういう心構えをいま私たちは学ばなければ、と思ひました。

JPCの今後の課題は沢山あります。交流活動、要望を集める活動、要求を掘り起こす活動、そして政治への反映です。私たちはもつと力を持たなければなりません。それには加盟団体を増し、独立した事務所をもち、また専従の役員が必要です。

これからの新しい運動の方向とは全国的な運動でもありますが、私たち自身が地域で力をつけていかなければならないと思ひます。市町村単位で患者会運動ができていくような時代になったら私たちの福祉も進むと思ひます。今後の幹事会や交流集会でも元氣にお会いして、そういうお話をしていきたいと思ひます。

今日はどうもご苦労さまでした。

(伊藤たてお代表幹事)

総 会 宣 言

80年代、「活力ある福祉社会」を叫んですすめられた「行政改革」とは、いったい何だったのでしょか？「高齢化社会危機論」をいながらすすめられた「行政改革」は、私たち患者や障害者に何をもたらしたのでしょうか？『世界一お金持ち』といわれるこの国で、80年代に何が起こったのでしょうか？

戦後の経済や科学技術の成長・発展を、身を削って支え高齢期を迎えた人たちに、この国がした仕打ちは、医療費の自己負担と医療差別であり、老齢年金の切下げでした。今、経済の発展のために身を粉にして働いている人たちにこの国が贈ったものは、健康保険制度の「改正」で自己負担を課すことでした。そして「医療や福祉にお金をかけ過ぎる」と国の支出を減らしました。それだけでは足りずに、「高齢化社会に備えて」とか「医療や福祉に必要なだから」といって、「消費税」を設けて国民の家計を圧迫しました。もしかしら、そのお金は、防衛費に回されるのではないかと疑います。なぜなら、自ら決めた「GNP比1%増」とやらはさっさと取り払ってしまっ、防衛費は増える一方なのです。これを「活力ある福祉社会」というのでしょうか。これを「増税なき財政再建」というのでしょうか。

そして90年代、この国では、もっと酷いことがすすめられようとしています。

病院を患者の病状別に分け、入院期間も制限し、病院収入も減らす計画がすすめられています。福祉サービスは市町村の仕事だからと態勢も財政力も乏しい市町村に押しつけ、国の補助金は減らすといっています。お年寄りも障害者も家族と暮らす方が幸せだからと、条件のない人にも『在宅』をすすめる政策が始まっています。厚生年金の老齢年金の支給年齢を先に延ばす計画もあります。制度間に不公平があるからと、医療保険の給付率を低い方にそろえる話も90年代の計画です。それなら税金や保険料や自己負担を下げるのかと思えば、国民負担率は「50%を下回ることが目標」だといっています。

「踏んだり蹴ったり」とは正にこのこと。私たち患者は黙ってよいのでしょうか。

私たちは、断固「異義あり」を呼びます。

「税金は国民の医療にまわしなさい」「福祉サービスに使いなさい」「在宅にまわしなさい」「教育に使いなさい」「『在宅』をいうならもっとヘルパーを増やしなさい」「ショートステイやデイサービスはもちろん、特別養護老人ホーム・障害者施設・難病患者の施設をもっともっとたくさんつくりなさい」「病に苦しむ人々が安心して暮らせる施策を充実しなさい」……。

私たちは、この総会で決定した活動方針にしたがい、JPCをいっそう強化して、多くの国民と連帯してたたかうことをここに宣言します。真に人間が大切にされる豊かな21世紀をめざして。

1990年6月10日

日本患者・家族団体協議会 第5回総会

※は常任幹事

1990年度役員

役名	氏名	所属団体
代表幹事	長 宏	日 忠 同 盟
	伊藤たてお	北 海 道 難 病 連
事務局長	小 林 孟 史	全 腎 協
幹 事	菅 原 道 子	北 海 道 難 病 連
	山 崎 洋 文	秋 田 県 難 病 連
	※伊藤 博	福 島 県 難 病 連
	荒 井 重 雄	茨 城 県 難 病 連
	黒 崎 本 一	群 馬 県 難 病 連
	久 保 田 耕 司	長 野 県 難 病 連
	伊 藤 博	岐 阜 県 難 病 連
	土 屋 光 信	静 岡 県 難 病 連
		三 重 県 難 病 連
		滋 賀 県 難 病 連
	※柳田 貞 男	京 都 府 難 病 連
	※加納 米 三	大 阪 府 難 病 連
	※斎藤 見 宏	兵 庫 県 難 病 連
	森 伊 正	奈 良 県 難 病 連
	杉 原 信 仁	岡 山 県 難 病 連
	西 森 木 吉	高 知 県 難 病 連
	篠 崎 雅 吉	愛 媛 県 難 病 連
	原 田 恒 夫	宮 崎 県 難 病 連
	安 安 藤 隆	鹿 児 島 県 難 病 連
	藤 田 茂 之	全 交 協
	※辻川 寿 全	全 心 協
	※梅崎 園 全	全 国 心 協
	※古川 圭 日	日 忠 同 盟
	高 河 橋 豊	ス 全 協
	野 外 都 夫	全 国 パーキンソン
	※黒田 武	全 腎 協
	全 国 多 発 性 硬 化 症	
	全 低 肺	
会計監査	瀬 志 本 正 夫	長 野 県 難 病 連
	松 尾 郁 子	ス 全 協

4

ご 来 賓

● 遠山 亨 (全医労中央執行委員長)

● 保田行雄 (全国へモフィリア友の会)

祝電・メッセージ

- 長谷川慧重厚生省保健医療局長
- 松澤秀郎厚生省保健医療局疾病対策課長
- 児玉健次衆議院議員
- 正森成二衆議院議員
- 沓脱タケ子参議院議員
- 大内啓伍民社党中央執行委員長
- 日本医療社会事業協会
- 日本看護協会
- 国際障害者年日本推進協議会
- 日本てんかん協会
- 障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会
- 全国難病団体連絡協議会
- 千葉県難病団体連絡協議会
- 神奈川県難病団体連絡協議会
- 和歌山県難病団体連絡協議会
- 福岡県難病団体連絡協議会
- 香川県患者自治会連合会
- 全国筋無力症友の会
- 全国腎炎・ネフローゼ児を守る会
- 全国多発性硬化症友の会
- 全国労働組合総連合

(以上順不同、敬称略)
(二十一件)

いま地域の活動を重視して

地域難病連交流会を開催

全国から20団体50人が参加

総会前日の六月九日に行われた『JPC地域難病連交流会』は、JPC未加盟団体（愛知、和歌山、福岡）を含む、二十難病連五十人が参加しました。当日の交流の様子を、議長を務めた京都難病連の加納正雄さんに報告していただきました。（編集部）



今回の交流会では、長野・兵庫・宮崎の三県からの報告を中心に、対県交渉の経験などについて交流しました。各県から出された発言の概要は次のようなものです。

＊「国際障害者年長野県推進協議会」や「国民医療を守る長野県推進委員会」などに参加して、難病問題の理解を拡げるように努力している。県議会議員四十一人の参加で「難病対策議員懇話会」がつくられており、議会でも難病問題を検討されている。

今後は県下百二十一市町村へも働きかけていきたい。△長野▽

＊難病相談室（七月）・難病センター（十月）が開催されるようになった。昨年実施した実態調査に基づき「難病を考えるシンポジウム」を開催した。その後、県議会の中で難病問題で質疑が行われ、県や神戸市は開設の予算を組んだ。

各地域難病連で「センター」設立の運動が盛んになっている。「センター」の目標、意義、運営などについて検討する機会を。△兵庫▽

＊各会から出された百十項目の要求で、朝から夕方まで交渉した。しかし再交渉は断わられ、県からは「項目を絞ってくれ」と言われている。△宮崎▽

＊県交渉では毎年同じ様な回答しか得られない。補助金は僅か、しかもヒト付きた。福祉タクシーでも、対象は身障一、二級で、難病者は除かれている。△岡山▽

＊結成以来、様々な運動を積み重ねて来た。このたび県から「特定疾患患者手帳」を交付されることになった。△滋賀▽

＊竹づつ募金が一億円を超え、募金を基金にした利息が活動資金に。△愛知▽

＊地元新聞社が難病問題を積極的に取り上げてくれ、県民の理解が拡がってきた。△高知▽

など各県から、成功している例、困っている例などが出されました。県民の理解を得る活動、ねばり強い運動が「自治体の施策にも反映されていく」との確信が各県から話されたと思います。

夕食後もフリー交流が深夜に及び、地域難病連交流会への期待が強く感じられました。

報告―加納正雄（京都）



特集

現代に生きる朝日訴訟

〈朝日訴訟（人間裁判）と患者運動〉①

6

はじめに

「人間裁判」ともよばれた「朝日訴訟」は、患者運動の草分けといわれている日本患者同盟（日患同盟）の、朝日茂さんという一人の患者によっておこされた「生活保護行政訴訟」である。いい換えれば、日患同盟の、生活改善要求の中から必然性をもって生まれた、夜明けを拓く運動の一つであった。

ある新聞報道と朝日訴訟

(1) 岡先生の随想

二年前の六月二十七日、朝日新聞の岡山版に「政治学習の入口で一人間裁判」という見出しの随想が載っていた。

筆者は早鳥小学校（朝日さんが療養していた療養所の所在地）の岡浩一先生であった。

「人間裁判」というなつかしい文

字にひかれて読み入った。短い文章の中に、教育への熱情、子どもたちを教養育てる過程での真摯な苦悩が充分汲みとれて胸をうたれた。そして何よりも、若い教育者のその誠実さが正しい反応をよんで子どもたちを行動に立上らせていく。そういった過程が、とても感動的であった。そのとき、教材に選ばれたのが、人間裁判―朝日訴訟であった。

つよい感銘をうけた私は、その後、岡先生を早鳥小学校に訪ねたことをいまも思い浮かべる。以下は岡先生の寄稿の全文である。

「六年生の社会科で悩むのは、後半の政治学習。歴史学習で、あれほど目を輝かせた子どもたちが、政治学習ではまるで外国語を聴いているような顔をしている。

『政治』とか『憲法』という子どもたちにはあまりに縁遠く、難しい世界。社会というものに、子どももの興味、関心がますます向かなくなってきた。というのが教室での実感です。

このような悩みの後、私が政治学

習の入り口としてとりあげたのが『人間裁判』です。昭和三十二年から『人間らしい生活とは』という問題を、憲法二五条を根拠に国と争ったのは、国立早鳥療養所の入院患者、朝日茂さんでした。

生活保護患者に支給される『六百元』の日用品費が『人間らしい暮らし』として妥当かどうか。戦後間もないころの社会状況。理論的には判断の非常に難しい問題です。

そこで、まず朝日さんたち生活保護患者の当時の生活実態を授業の最初にぶつけてみました。『菓の包み紙がしりふき紙？ほくなら生きていけない』『一食三十一円。牛乳一本十四円だから、それだけで半分とぶな』と驚きを持った子どもたち。

そしてクラス全員が町内でのインタビュー活動に散っていききました。当時の医者、看護婦さん、病院職員をたずね、生々しい証言を持ち帰ってきたのです。

裁判で、国側は『当時の日本の生活水準と比べれば、仕方ない』という主張をします。それを聞いて子ど



文＝長宏

（JPC代表幹事）

もたちは、『朝日さんの言い分は、やっぱりぜいたくな』と、多少考えをゆさぶられます。しかし、そんな時、決め手になったのは足でかせいだ録音テープでした。『金持ちの患者が床に落した卵を、思わずはいつくばってすすった』。こんな証言を聞いて『国民の暮らしのレベルを少しでも上げる努力をするのが国の持つべき考えではないか』と、さらに考えを深めていくことができました。

朝日さんの生き方、業績に共感を持った子どもたちは、学習の予定になかった『没後二三周年記念集会』への参加を計画、二十一人が参加し、記念碑へ献花して帰ってきました。

心と身体を動かして問題を追及していった子どもたちは、頭の中だけでO×式の形式的理解ではなく、政治のあり方、人の生き方までも実感的にさぐっていくことができたように思います。学習の計画段階で、同



朝日 茂さん

僚から『暗い』といわれ、私も迷っていました。しかし心をゆさぶるものがあれば、子どもの心は『正義』にとっても敏感なのだと思改めて認識させられたのでした」。

(2) 戦後史を飾った朝日訴訟
岡先生の随想にもあるように、朝日訴訟は、生活保護法の低い基準額の矛盾からはじまった訴訟である。一九五七年(昭和三十二年)当時、入院中の生活保護受給患者に日用品費として支給されたのは、一か月わずか六百元であった(資料)。病気を治すにはあまりにも低いこの額を朝日さんが取りあげたのであった。「この法律により保障される最低限度の生活は、健康で文化的な生活水準を維持することができるものでなければならぬ」という生活保護法第三条や、生活保護法が理念法とする憲法第二五条などが、違反を問う原点であった。

う「人間の原点」を衝いた訴訟であった。それゆえ、十年という長い裁判過程で、さまざまな社会的課題をはらんで発展したのであった。とくに生活保護法の基準額が賃金や社会保障の額を規制している現実的な問題からも出発して、基本的人権や人間の幸福権は、歴史的にどのように築かれてきたのか、戦争が破壊した人間性の問題、平和を維持する中でこそ社会保障が守られる、という大砲かバタールかの論理、さらに人間らしく生きるとはどういうことか、等々の人生観や哲学上の問題まで、実に多彩に、しかも濃く展開したのであった。だからこそ、朝日訴訟を勝利させることが大きな国民的課題にまでひろがっていったのである。

(3) 子どもの心に灯る
ここまで筆をすすめているとき、奇しくも岡山の友人から、三十名近い小学校六年生の作文が送られてきた。手紙によると、友人の友人である社会科の先生が、朝日訴訟を四時間わたって取り上げ、授業のあと、子供たちにその感想を書かせたものという。紙面の都合もあり一つだけ紹介しよう。

「朝日茂さんは、たった四十三キ

ロケラムで、それも結核で入院しているふつうのおじさんなのに、国を相手に裁判を起こしたというすごい人です。

国を相手に裁判を起こしたくらいだから、自分の言っていることが絶対正しいと思っているんだろな

朝日さん一人が起こした訴訟で、国中の入院患者や、生活に困っている人の生活が楽になったからすごいんです。たぶん朝日さんは、自分だけのことを考えずに、国民のことを考えて訴訟を起こしたんだと思えます。もし朝日さんが訴訟を起こしてくれなかったら、いまでも入院患者の生活はひどかったかたしれないし、生活に困っている人たちも多かったかもしれません。

これからも、朝日さんのように憲法をよく生かして、すばらしい世の中をつくらせていきたいです。」

「ふつうのおじさん」といって、たぶん朝日さんは、自分だけのことを考えずに国民のことも考えて訴訟を起こしたんだと思います」といい、大人をこそそんな鋭い観察、反応。そして何よりもましておどろくのは、ではどうすればよいのか、という質問に、見事に答えていることである。それでは、若い教育者が、すぐれた教材の一つとして選び、その教え子たち、明日の日本を担う子どもたちの心を、こんなにもしっかりと捉えた朝日訴訟の朝日茂さんとは、一体どのような人物で、どのようにその生涯を生きてきたのだろうか。

資料：入院患者の日用品費内訳(1カ月)
(1955年当時)

品目	年	間	月	額
衣類	2年	1着	16.66円	
		1着	10.00	
	4ヶ月	1着	43.33	
		30枚	8.75	
身廻品	1足	1足	12.50	
		1足	5.83	
	20本	20本	21.66	
		20本	0.32	
	1個	1.00		
保健衛生費	12回	60.00		
		70.00		
	6ヶ月	7.50		
		7.50		
	1本	8.33		
12束	50.00			
	20.00			
雑費	24枚	10.00		
		10.00		
	12枚	1.00		
		150.00		
	6本	20.00		
5.00				
3斤	40.00			
	8.96			
計			600.00円	

「肌着、2年1着」に注目

(つづく)

JPCの活動

全国交流集会'90は神戸市で開催

今年度のJPC『全国交流集会』は、十一月十七・十八日の二日間、わたり兵庫県神戸市で開催します。この集会を成功させるために六月二日、会場となる「しあわせの村」で全国交流集会実行委員会を行いました。

この実行委員会には、地元兵庫県難病連から朝見代表幹事、米田事務局長をはじめ4人が、またJPCからは小林事務局長ほか一人が出席しました。

会場の「しあわせの村」は、昨年四月に神戸市制百周年を記念して開



会場となるしあわせの村本館

一九七六年二月二十五日第三種郵便物認可
SSKO通巻四四四号（毎週月・火・木・金曜日発行）
一九九〇年七月三日発行

村された総合的福祉ゾーンで、広大な敷地に宿泊施設や研修施設、リハビリテーション病院、スポーツ施設など多目的な施設がたくさんあります。

実行委員会ではこれらの豊富な施設を利用して、今まで以上に楽しくためになる集会にしようと、会場の下見や、準備の進行状況などについて相談しました。

今集会の記念講演は、日本福祉大学の児島美都子先生をお招きし、海外の在宅ケア状況などを中心にお話していただく予定です。

JPCに寄付

匿名の方から100万円

三月二十四日付で、「患者運動研究所の設立のために」と、北海道難病連を通じて匿名の方から百万円のご寄付をいただきました。JPCでは北海道難病連を通じて感謝の意を伝え受領しました。



科学雑誌で、人体を構成する六十兆もの細胞は各々が影響し合いながら、全体の秩序を守っていることを知った。いい勉強になった。

医療・福祉のうごき

5月

▽5日 総務庁が発表したわが国の子供人口（十五歳未満）は減る一方で、総人口の一八・五％と戦後の最低記録。
▽15日 京大倫理委は生体部分肝移植手術を承認、国内で二番目。

▽22日 島根医科大学の「医の倫理委員会」は脳死肝移植の申請を社会的合意が得られないとして却下した。

▽25日 厚生省は「特定機能病院」と「療養型病床群」に体系化した医療法「改正案」を国会に提出した。
▽28日 総務庁がまとめた「身体障害者の福祉・雇用に関する調査」によると就職先のない身障者は八万人で法定雇用率（一・六％）を下回っていた。

5・6月

▽31日 阪

大倫理委は心臓の脳死移植を基本的に承認する方向。
▽7日 厚生省が昨年度行ったがんの全国調査で、肺がんは乳がんが十年前より大幅に増加し欧米型に近づいていることが明らかに。胃、子宮がんは減少。

6月

▽12日 日本移植学会は「脳死判定は厚生省研究基準を満たすことが最低条件」と初めて明文化した。
▽15日 京大医学部は学内の倫理委の承認を受け、父親から九歳の男児への生体部分肝移植を行なった。

▽16日 特別養護老人ホームなどへの入所決定権を町村に移譲するなどの老人福祉法等改正案が衆議院で可決された。
▽20日 信州大医学部で国内三例目の生体肝部分移植が行われた。

▽25日 昭和六十三年度の国民一人当りの医療費は十五万二千八百円と厚生省が発表。

がん調査

十六道府県二市で一九八五年五月から七月までにかかった患者（胃がんは六月まで）計一万九千八百八十八人について、三年間追跡し、その内容を昨年度の時点

でまとめました。同時に全国の市町村を対象に検診の実施内容などを調べました。今回の調査で、検診による肺がん発見者の七割近くが転移段階に進んでいることで現在の検診が万全でないことが浮き彫りになりました。

発行

身体障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

頒価三百円

目 次

○ 第5回総会	221
○ 特集 現代に生きる朝日訴訟	226
○ JPCの活動	228
○ 医療・福祉のうごき	228